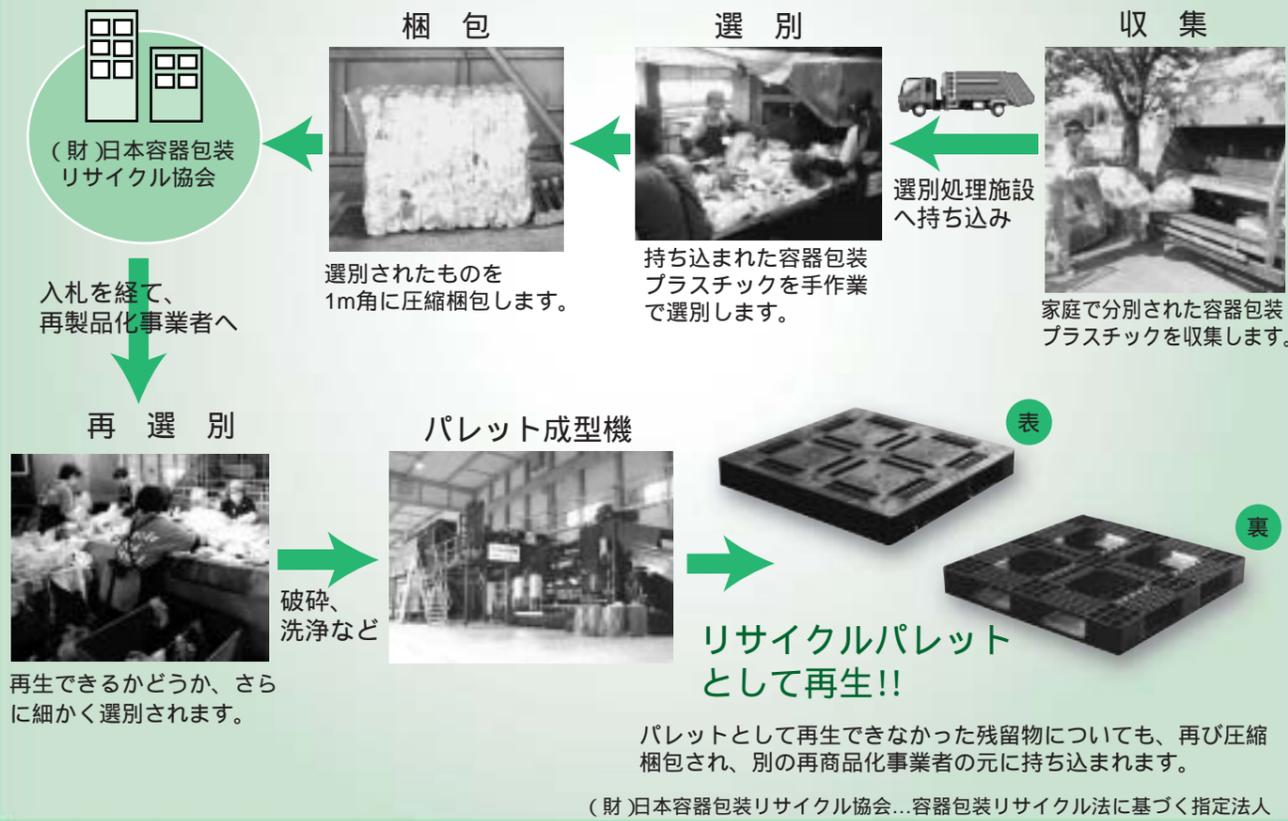


容器包装プラスチックが生まれ変わるまで

容器包装プラスチックとして回収されたごみは、どのようにリサイクルされているのかご存知でしょうか。

社地域、東条地域で回収されたごみは、まず民間の選別処理施設に集められ選別・梱包されます。その後、容器包装リサイクル協会による入札を経て再商品化事業者へ持ち込まれ、リサイクルパレットに生まれ変わります。



藤原康子さん (秋津)

東条地域では以前から廃棄プラスチックの分別が行われていましたが、そのときはごみの量がほとんど減らなかつたと聞いています。ですから、ごみの減量や分別に関しては制度も大切ですが、一人ひとりの意識の持ち方が一番大切だと思います。わが家でもごみの種類ごとにゴミ箱を分けていますが、家族の一人ひとりがごみを捨てる時に気を配るようにしています。一度ごみ箱に捨ててしまったごみを、後で分別し直すのは大変ですからね。また、集団回収に出すごみも、その都度種類ごとに分けて保管しておくようにしています。

また、婦人会の役員会のおかげで、飲み物をペットボトルで配らずに、みんながマイお茶マイコップを持参するようにしています。これでごみも減りましたし、費用の節約にもなりますし、良いこと尽くめです。



生ごみ処理機は、市からの補助金制度もあります。



ごみの種類ごとにゴミ箱を用意しています。



集団回収に出すごみも分別して保管しています。

ごみの減量・分別 わたしたちも始めています

この4月から、社地域、東条地域で容器包装プラスチックの分別収集が始まりましたが、すでにごみの分別や減量に熱心に取り組まれている方々もたくさんおられます。

そういった方々の中から、お二人の主婦の方にごみの分別や減量の取り組みについてお話を伺いました。



店頭回収に出すごみは、あらかじめ分類しておきます。



捨ててしまいがちな雑がみも分別して集団回収に。



包丁などで袋を切り開いてから布巾で拭くと、内側を乾かす手間が省けます。



包丁などで袋を切り開いてから布巾で拭くと、内側を乾かす手間が省けます。

婦人会の集会などでごみの分別や減量について勉強していたこともあり、始めてみると今までよりもちょっと手間はかかるけど、スムーズにできていると思います。それに、分別作業をいろいろと工夫するのも楽しいものです。例えば食材などの入っていたビニール袋は水洗いしてからごみに出しますが、乾かすのに時間がかかりごみをためてしまう原因になります。でも、包丁やハサミで袋を切り開いてしまえば乾くのも早いですし、布巾などで拭けばすぐに指定袋に入れることができます。店頭回収や地域での集団回収も積極的に活用しています。食材のトレー、牛乳パックなどは種類ごとに分類して店頭回収に出していますし、雑誌や新聞紙だけではなく雑がみなども細かく分別して集団回収に出しています。みなさんも環境のことを考えて、ちょっとした手間を惜しまずにごみの減量と分別に取り組んでほしいと思います。



小林邦子さん (上三草)

雑がみとは
家庭から排出される古紙のうち、新聞(チラシ)・雑誌・段ボール・飲料用パック以外の紙全般を指します。具体的には、紙箱、菓子箱、紙袋、包装紙、コピー用紙などが該当します。

【雑がみ類を集団回収に】
家庭から出る燃えるごみの中には、まだ雑がみなどリサイクル可能な紙がたくさん含まれています。これを集団回収に出すことによって、大幅なごみの減量が可能で、

他にもあります！
私たちにできること
地域で集団回収
集団回収は昔からの優れた再資源化の方法で、新聞、雑誌や空き缶などの再生可能な資源ごみを回収して業者に売却することで収入を得るだけでなく、子どもたちが活動に参加することで、ごみの分別やリサイクルを学ぶこともできます。また、市からも奨励金を交付しています。



子どもたちも頑張っています。

区長会、消費者協会、保健衛生推進協議会では、オリジナルのマイバッグを作成し、市役所の窓口センターで販売中です。ぜひ、この機会にお求めいただき、さっそくエコ活動を実践してみませんか。

日本人が一日に使うレジ袋は平均〇・六八枚。少ないように感じるかも知れませんが、これを加東市に当てはめると、年間なんと約一千万枚(広げると甲子園球場約七一・六個分)のマイバッグを用いることは、一人ひとりができる最も身近な活動といえるでしょう。



便利なミニバッグ付き。



裏側にはハリーンイラストが入ります。

加東市オリジナル
マイバッグはいかがですか?
ほくにもできる

ごみゼロ北播磨 マスコットキャラハリーン